

土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography

山形県酒田市飯森山2丁目13番地(飯森山公園内)
TEL 0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

開館40周年記念特別展

名取洋助と 土門拳

社会的写真を求めて

2023年(会期中無休)

4月6日(木) - 7月9日(日)

午前9時 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料: 一般 1200円、高校生 600円、中学生以下無料

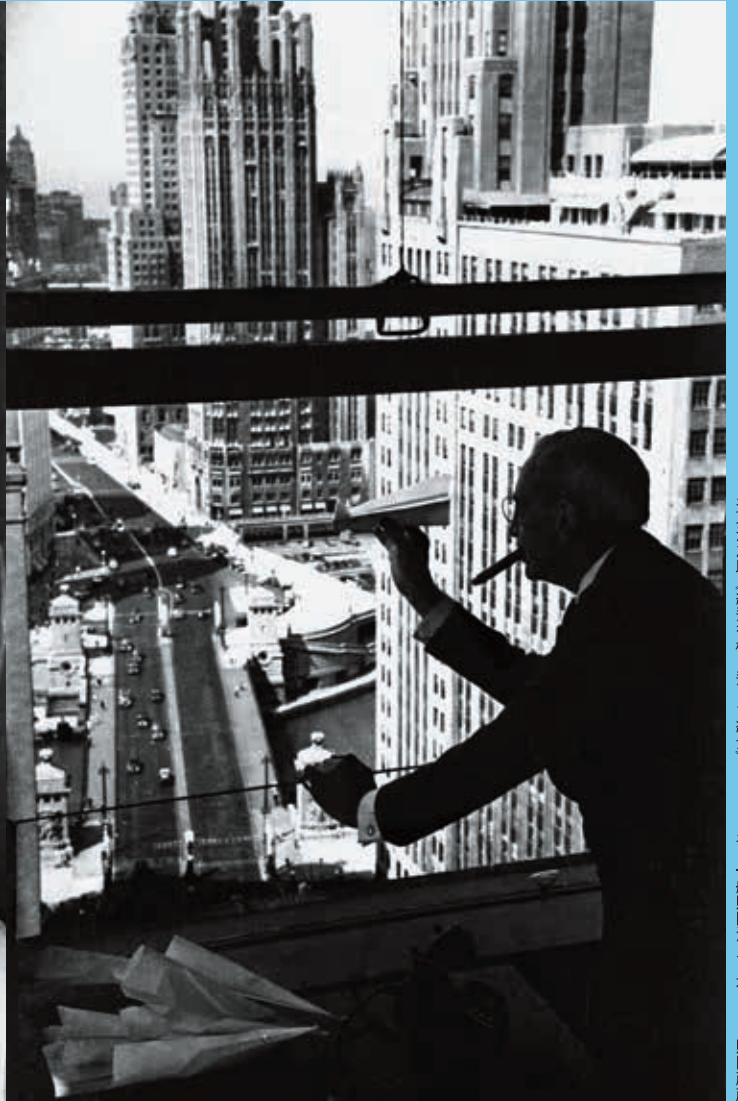
主催: 公益財団法人さかた文化財団、土門拳記念館

共催: 一般財団法人日本カメラ財団、酒田市、酒田市教育委員会

domon



土門拳(宇垣一成外相官邸にて) 1938年 一般財団法人日本カメラ財団所蔵



名取洋之助(紙飛行機を飛ばす紳士) 1937年 一般財団法人日本カメラ財団所蔵



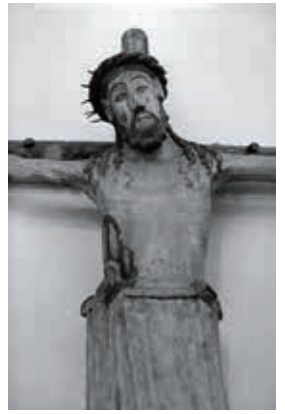
名取洋之助
《ナチス式敬礼》/1936年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵



名取洋之助
《ネガを見るメッキー》/1937年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵



名取洋之助
《芋の弁当 黒島》/1954年頃
一般財団法人日本カメラ財団所蔵



名取洋之助
《ヴァリスの磔刑像》/1961年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵

土門拳



土門拳/1938年頃
一般財団法人日本カメラ財団所蔵

開館40周年記念特別展

名取洋之助と土門拳 —社会的写真を求めて—

名取洋之助と土門拳。日本の写真史を考える上で欠かせない写真家であり、その関係をめぐって様々な語られる両者ですが、2人展の形でその活動を振り返る展覧会は今回が初となります。

1910年に東京の裕福な家庭に生まれた名取は、10代でドイツへ留学してデザインを学びました。ドイツ最大手の新聞社・ウルシュタイン社の契約写真家として活躍しましたが、ナチスの外国人ジャーナリスト規制によって1933年に日本へ拠点を移し、写真家・木村伊兵衛らと「日本工房」を結成。審美や慰安ではなく、社会を語る〈報道写真〉を日本でも実現しようと様々な試みを行います。

ほどなく脱退した木村らの後に日本工房へ入ったのが土門拳です。1909年に山形で生まれ、貧しさや闘いながら刻苦勉強していた土門は、弟子入り中の写真館を1935年に飛び出して名取の指導のもとで〈報道写真〉に取り組みます。情熱

と負けじ魂でメキメキと腕を上げ、やがて、1939年にはプロデューサーとしての名取と袂を分かち、自らの写真に邁進していきます。

戦争の時代をそれぞれに経て、戦後の名取は写真に語らせる教養文庫である岩波写真文庫の編集長格として活躍し、土門はリアリズムを謳いあげて『ヒロシマ』『筑豊のこどもたち』を世に問います。敬意を持ちながら反発することもあった両者ですが、それぞれに生涯をかけて社会的写真を探求し続けました。

本展は土門拳記念館の開館40周年を記念した特別展です。一般財団法人日本カメラ財団との共催により、同財団が所蔵する名取作品、さらには当館では展示したことのない日本工房時代の土門作品など、貴重な資料を多数お借りして開催いたします。写真が最先端のメディアであった1930年代から激動の時代を経て戦後に至るまで、彼らが求めた写真の在り処を振り返ります。

名取洋之助



名取洋之助/1937年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵



土門拳
《鮎突く子ら》/1936年



土門拳
《防共富士登山隊》/1938年
一般財団法人日本カメラ財団所蔵



土門拳
《三人の傷痍軍人》/1952年頃



土門拳
《聖林寺十一面観音立像頭部》/1964年

関連イベント ※いずれも入館料がかかります。

4月29日(土)

こども写真教室

参加無料 / 要予約 ※詳細はお問い合わせください。

4月22日(土)、6月17日(土)

いずれも午後2時~午後2時30分

学芸員によるほほ月イチギャラリートーク

参加無料

5月27日(土) 午後2時~

白山真理氏(日本カメラ財団調査研究部長)トークイベント
「〈報道写真〉は誰のもの?—1930-60年代の社会的写真—」

参加無料 / 要予約

7月1日(土)

あじさい呈茶 別途お茶席料

